

令和2年度農作業体験学習実態調査結果

令和2年10月7日

福島県農村振興課

1 調査主旨

県内公立小学校において「田んぼ」「畑」を活用し、農作業体験を通して農業・環境を学ぶ授業（以下、農作業体験学習）の実施状況を把握する。

2 調査概要

- (1) 照会期間 令和2年6月30日～令和2年8月21日
- (2) 対象校数 419校（令和2年6月1日現在（休校を除く））
- (3) 回答校数 333校 回答率79%（R1 370校 回答率：86%）

※特に表記のない場合、単位は「校」とする。

3 調査結果

<農作業体験学習の実施状況について>

問1 今年度農作業体験学習を行っていますか。

※実施校 263校（複数回答）

	地域別							県全体	参考 (R1)
	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき		
はい	60	64	28	42	12	15	42	263	298
いいえ	25	19	3	7	1	0	15	70	72
実施率	71%	77%	90%	86%	92%	100%	74%	79%	81%

回答のあった公立小学校 333校のうち、約8割が農作業体験学習を実施している。

<農作業体験学習の実施内容について>

問2 (1) 農作業体験学習をどのように実施していますか。

※実施校 263校（複数回答）

年間を通じた農作業体験学習 取組校数の内訳	農地利用	容器利用	(参考) R1	
			田んぼ	バケツ稲 プランター
水稲	田んぼ 101	バケツ稲 プランター 120	田んぼ 124	バケツ稲 プランター 149
野菜等	畑 178		畑 202	
田や畑を利用した農作業体験 学習の取組校数	242 (※重複 37)		277 (※重複 49)	

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県全体	参考 (R1)
田んぼ	17	24	10	30	4	3	13	101	124
畑	43	38	19	37	9	7	25	178	202
バケツ・プランター	27	31	15	15	4	10	18	120	149
その他	37	27	12	17	7	3	10	113	97

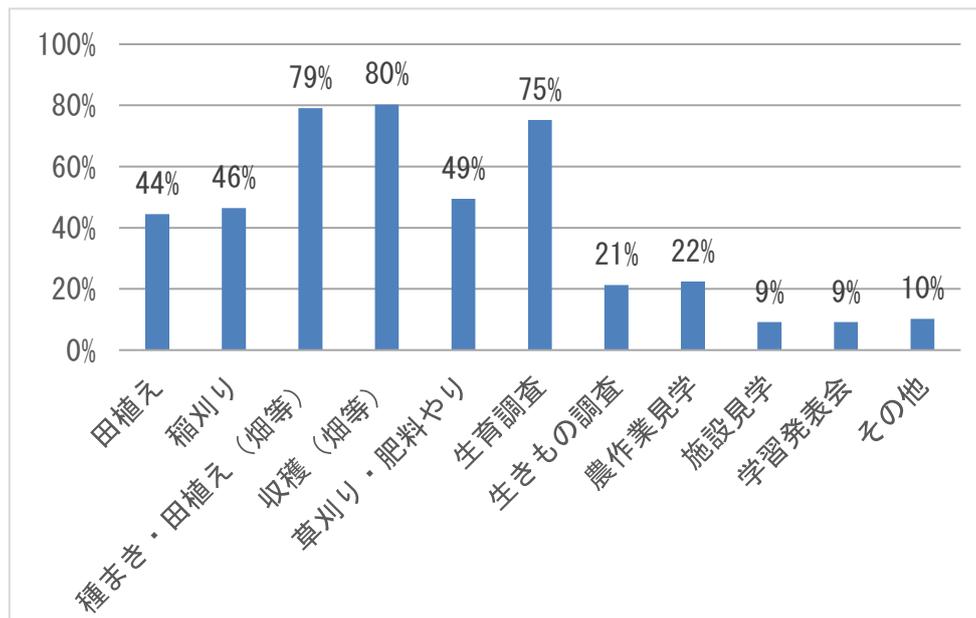
※（その他内訳） 花壇 等

農作業体験学習は、田んぼを利用したものが約4割、バケツ・プランターを利用したものが約5割、畑を利用したものが約7割となっており、特に畑を活用した農作業体験学習が広く実施されている。

<農作業体験学習の具体的な取組内容について>

問2（2） 具体的にどのような作業をしていますか。

※実施校 263 校（複数回答）



※（その他内訳） 収穫祭、養蚕、バケツ稲 等

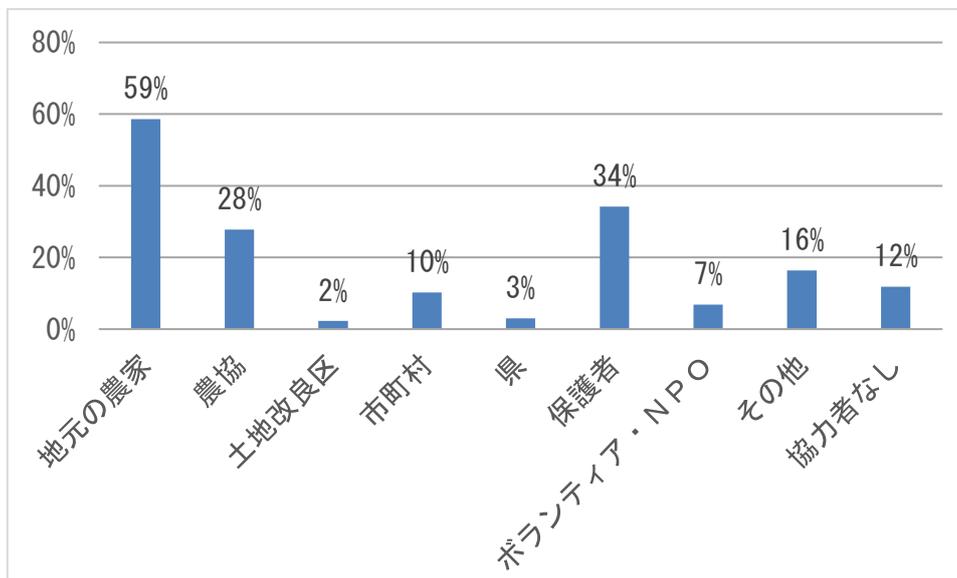
農作業体験学習の具体的な活動内容としては畑での種まき・田植え、収穫、作物の生育観察が多く、次いで草刈り・肥料やりが多くなっている。

また、農作業見学や施設見学、学習発表会など、農業への理解を深めるための活動も実施されている。

<農作業体験学習における協力者について>

問2 (3) 農作業体験学習を行う際、どのような方に協力してもらっていますか。

※実施校 263 校 (複数回答)



※ (その他内訳) 自校用務員、農業科支援員、ボランティア団体 等

農作業体験学習の実施にあたっては、地元の農家や農協など、農業についての知識や技能を有する方々や、保護者の協力が多くなっている。

<農作業体験学習実施校における実施意向について>

問2 (4) 今後も農作業体験学習を継続していきたいと思いませんか。

※実施校 263 校

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県全体
はい	60	60	28	41	12	15	41	257
いいえ	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	4	0	1	0	0	1	6

農作業体験学習を実施している学校のうち、ほぼ全ての学校で今後も継続したいとの回答が得られた。

<農作業体験学習を実施していない理由について>

問3 (1) 実施していない理由は何ですか。

※未実施校 70 校 (複数回答)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県全体	参考 (R1)
予算	4	2	0	0	0	0	1	7	9
協力体制	3	5	0	1	0	0	5	14	11
農地	12	12	1	3	0	0	11	39	19
時間	19	8	2	4	1	0	10	44	61
放射線理解	3	0	0	0	0	0	1	4	11
その他	6	8	1	1	0	0	1	17	9

農作業体験学習を実施していない理由として、「他の教育活動（外国語学習等）により、農作業体験学習に割ける時数がないため」が最も大きな割合を占めている。次いで、「周辺に適した農地がないため」が理由となっている。

今年度は、「その他」の割合が多くなっており、その多くが「新型コロナウイルス感染症の影響のため」である。

4 まとめ

通年の農作業体験学習を実施する「田んぼの学校・畑の学校」と同様に、農地を利用した活動は、73%（333校中242校）の公立小学校で実施されている。

一方で、農作業体験学習に適した農地や、地域の協力者の確保が困難であることを理由に、農作業体験学習に取り組むことができない学校もある。

また、これまで農作業体験学習には総合的な学習の時間や理科の授業時数の一部が充てられていたが、近年、外国語学習やプログラミング学習等の実施により、農作業体験学習の実施に割ける時数の確保が大変困難な状況となっている。加えて、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、農作業体験学習を中止せざるを得ない状況となった学校が多々見られた。今後は、感染症の動向を見ながら農作業体験学習を継続したいという意見が多かった。